

台風3号の接近・通過に伴う農作物の被害防止対策について(野菜・花き編)



6月2日からの梅雨前線による大雨や台風2号により、多くの作物に冠水等の被害が発生しました。さらに来週12日にかけて台風3号の接近・通過が心配されています。まだ水の引かないところもある中で、更なる被害が発生することが予想されます。被害を受けた作物は病害が発生しやすいため、状況に応じて殺菌剤などの予防散布に努めてください。前回の営農 News と合わせ、下記の点に注意して被害防止対策を実施してください。

なお、詳細は県農業総合センターホームページに気象災害の技術対策が掲載されていますので、参考にしてください。

事前対策

1 園芸施設

- ・ ハウス周辺の排水溝などを清掃しておくとともに、飛来物による損傷防止のため周辺を片付けておく。
- ・ 燃料タンクやガスボンベ等をしっかりと固定する。
- ・ ハウスが破損するのを防ぐため、被覆材の破れ、ハウスバンドや被覆材の取り付け金具の緩みを点検し、必要な補修、調整を行う。
- ・ 台風襲来直前には、出入り口を密閉し、換気扇を稼働させてハウス内を減圧する。
- ・ 強風で倒壊する危険がある場合は被覆材を除去する。



2 露地野菜

- ・ 強風害・潮風害のおそれのある場合には、べたがけ資材、寒冷紗等で被覆する。支柱やネット、誘引紐を点検して確実に固定し、必要に応じて補強する。
- ・ 露地の果菜類では、不要な茎葉を摘除して風の影響を抑え、また収穫できる果実は全て収穫しておく。
- ・ ネギでは、土壌の乾き具合や作物の草勢を観察しながら、倒伏防止のため予め土寄せを行う。
- ・ 未成熟トウモロコシでは、倒伏防止のため交配が終了した圃場は、雄穂と止め葉から1節下までを切除する。

3 花き

- ・ 露地においては、倒伏による曲がり等が発生しやすいので、支柱・フラワーネットの点検、補強、または土寄せ等を行う。

事後対策

1 園芸施設

- ・ 開口部を開放して湿度の低下に努める。潮風害を受けた場合は、速やかに散水して除塩する。
- ・ ハウス内の破損等を確認し、安全を確保する。また、燃料のタンクや配管、暖房機から燃料の漏れがないか、機器が安全に運転可能な状態か確認する。停電があった場合は、機器の設定条件を再確認する。
- ・ ハウス等に損傷がある場合は、早期に修理するとともに、補修にかかる資材の調達が困難な場合は、当面の栽培管理への影響を軽減できるよう、補強やテーピング等の応急措置を行う。
- ・ 冠水した場合は、排水ポンプを用いるなどして、速やかに排水する。

2 露地野菜

- ・ 茎葉に付着した泥を洗い流し、損傷した茎葉を摘除する。マルチ栽培においては、マルチをめくって土壌を乾燥させる。
- ・ 土壌乾燥後の軽い中耕、追肥、液肥の葉面散布等により、発根、草勢の回復を図る。
- ・ 果菜類(ナスなど)では、草勢低下を防ぐため、摘果や若どり着果負担を軽減する。
- ・ 軟弱野菜や果菜類では、天候回復後の強日射、高温となった場合に、萎凋や日焼けを起こしやすいので、一時的に遮光資材を用いて日射を制限する。

3 花き

- ・ 露地切花等で倒伏したものは、速やかに起こし、茎の曲がりを極力抑える(長時間置くと曲りが回復しなくなる)。また、折損した葉、茎葉は摘除し、下葉についた泥などはきれいな水で洗い流す。
- ・ 強日射による萎凋が予想される場合には、寒冷紗を被覆する。
- ・ 病虫害予防や草勢回復のため、必要に応じ、薬剤や液肥の散布を行う。

作物生育の回復対策 (葉面散布剤の使用例)

葉菜類や根菜類:メリット青 500~800 倍+グリーンセーフプラス 800~1,000 倍+カルタス 500 倍を、3~7 日おきに 2 回程度の葉面散布を行います。

果菜類 :メリット青またはメリット黄 500 倍+グリーンセーフプラス 800~1,000 倍+カルタス 500 倍を、3~7 日おきに 2 回程度の葉面散布を行います。 ※ 青・黄は生育に応じて使い分けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。